６小金工第２２号
令和６年４月１日

令和６年度　東京都立小金井工科高等学校　学校経営計画

東京都立小金井工科高等学校
校長　　森　田　常　次

１　目指す学校

社会の期待に応える専門教育及び幅広い教養と豊かな人間性を育む教育活動を展開し、「思いやりの心をもって他者と協働し、その時代に貢献できる社会人（技術者）」を輩出する学校を目指す。

〔１〕スクール・ミッション

工業技術専門教育を行う学校として、機械科、電気科、電子科の必要な専門知識を実験や実習を通して技能や技術を身に付けるとともに、基礎学力の定着を図り、社会の期待に応え、工業技術者として社会に貢献し、自立し、他者を尊重し行動できる人間を育成する。

〔２〕教育目標

自律：教養を高め、情操と知性との調和を図り、合理的なものの見方や実践の仕方を体得させる。そして、健康で責任感のある自律の人をつくる。

協調：他人の人格、立場及び意見を尊重する。そして、互いに協力し合って社会生活を明るく豊かにする生活態度を身に付けた協調の人をつくる。

技術：工業技術者としての基礎的、専門的な知識を修得させる。そして、勤労意欲と創意工夫に喜びを見出すことの出来る技術の人をつくる。

〔３〕スクール・ポリシー

（１）グラデュエーション・ポリシー

全ての教科・科目、特別活動等の教育活動をとおして、以下の５つの資質・能力を身に付けさせ、思いやりの心をもって他者と協働し、その時代に貢献できる社会人（技術者）を育成する。

①基礎的・基本的な学力　②コミュニケーション能力　③主体的に取り組む姿勢
④自己理解・自己管理能力　⑤キャリアプランニング能力

（２）カリキュラム・ポリシー

多様な生徒が学ぶ機会を提供し、生徒相互・生徒と教員のコミュニケーションを大切にしながら、生徒の状況に応じた学習活動、生活指導、教育相談、進路指導等が実践できる教育課程を編成・実施する。

①基礎的な知識・技能が習得できる科目を重点的に配置する教育課程を編成する。
②基礎・基本の確実な定着を図るため、きめ細やかな指導と分かりやすい授業を展開する。
③自らの課題に主体的・協働的に取り組み、その課題を解決しようとする力を育てるため、教え合い学び合う授業、課題研究、行事等を実践する。
④家庭や地域、ハローワーク、企業等との連携し、生徒一人ひとりの進路実現する進路指導を展開する。
⑤スクールカウンセラーや外部機関と連携し、生徒一人一人の発達段階に応じた指導・支援を展開する。
⑥生徒、保護者、地域による学校評価の結果を学校連絡運営協議会で評価し、教育課程を改善する。

（３）アドミッション・ポリシー

次のような生徒を求める。

①「命と体と仲間を大切にしよう」が実践できる生徒
②機械、電気、電子やものづくりに意欲・関心のある生徒
③部活動、委員会活動、奉仕活動等に積極的に取り組もうとする社会性のある生徒
④本校入学を機に、専門的な知識・技術を身に付けたいと考えている生徒

２　中期（令和７年度目途に達成する）目標とその達成に向けた具体的な方策

スクール・ミッションである「社会の期待に応え、工業技術者として社会に貢献し、自立し、他者を尊重し行動できる人間を育成」を達成するために、中期目標とその達成に向けた具体的な方策を次のとおり設定する。

（1）90%以上の生徒が「学ぶことの喜び」を感じることのできる授業を展開

基礎的・基本的な学力（活用することができる知識・技能）の定着、学ぶ意欲の醸成を図るために、「生徒による授業評価」「教職員相互の授業観察による授業研究」「生徒の特性に応じた教材や ICT 機器を活用した教材の開発」を実施する。また、多様な生徒の学びに対応するため、「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり」や「合理的配慮の必要な生徒に対する指導に関する研修」等を実施する。

（2）全ての生徒が「自分自身の特性を理解し、自己の生き方・在り方」を考えることのできるキャリア教育を展開

自分と向き合い、自己を理解し、進路実現に向けて積極的に取り組もうとする生徒を育成するために、「適性検査やキャリアパスポートの活用の充実」「学校設定科目『人間と社会』の指導の充実」「資格取得のための指導体制の確立」を実施する。

（3）90%以上の生徒が、社会性・規範意識が高め、多様性を尊重する精神を身に付ける教育活動を展開

思いやりや責任感、自己肯定感の醸成、人権感覚を高めるため、ねらいをもって計画的・組織的にホームルーム活動・学校行事を展開する。

３　令和６年度における取組目標とその達成に向けた具体的な方策

（1）学習指導の充実

教材や指導方法を工夫し、生徒が学ぶことの喜びを感じることのできる授業を展開する。

①　基礎的・基本的な学力（活用することができる知識・技能）の定着を図る指導の実践

取組目標：「授業内容が分かる」「学んだ知識を活用できるようになった」と実感する生徒の割合が 80%以上となる授業の割合が 75%以上

具体的な方策：ｱ)授業時数や授業時間（45 分）を確保するとともに、補習や講習を実施する。

ｲ)授業の到達目標を明確にするとともに、題材の提示などはＩＣＴ機器を効果的に活用する。

②　自ら学ぶ意欲を醸成する教材や指導方法を研究開発

取組目標：「学習したい、調べたい」と思う題材が提供されていると実感する生徒の割合が 80%以上となる授業の割合が 75%以上、資格取得に向けた講習会を実施した教員の割合が 75%以上、新たな国家資格に準ずる資格取得にチャレンジした生徒数 20 名以上

具体的な方策：ｱ)１人１台端末を有効に活用した課題提供を行う。

ｲ)ユニバーサルデザインの視点に立ち、多様な生徒の学びに対応した教材や指導方法を研究・開発する。

ｳ)全国工業高等学校長協会主催の資格検定（計算技術検定、情報技術検定等）の取得のための補習・補講を実施する。

ｴ)国家資格に準ずる資格取得の意識付けをするとともに、資格取得に向けた講習を実施する。

③　授業改善（指導と評価の一体化）の推進

取組目標：評価を次の学び（授業）に繋がるように活用した指導が行われていると感じている生徒の割合が 75%以上となる授業の割合が 75%以上、教員相互の授業参観による授業研究を１回以上実施した教員の割合が 75%以上、観点別学習状況の評価の在り方や評価と指導の一体化に関する研修会の実施回数３回以上

具体的な方策：ｱ)教職員相互の授業参観を実施し、授業改善の協議を実施する。

ｲ)観点別学習状況の評価に関する校内研修を実施し、評価方法や指導と評価の一体化についての理解を深める。

（2）進路指導の充実

「自分自身の特性を理解し、自己の生き方・あり方」を考えることができるキャリア教育を展開する。

① 適性検査やキャリアパスポートを活用した自己理解を深める指導方法の研究開発

取組目標：ＨＲ活動において、適性検査やキャリアパスポートが有効に活用され自己理解を深めることができたと実感する生徒の割合が 75%

具体的な方策：ｱ)適性検査を活用した自己理解に関するワークシートを作成し、適性検査の結果を振り返ることを指導する。

ｲ)キャリアパスポートの記入内容に対して複数の教職員がコメントを返すことにより、自己の成長に気付く指導を行う。

② 生徒自身が「歩むべき道」を見出すことができる学校設定科目「人間と社会」の指導方法の研究開発

取組目標：現代社会の課題について協議して、将来自分自身がやるべきことが何かを深く考えることができたと実感する生徒の割合が 75%

具体的な方策：ｱ)副教材を活用して、現代社会の課題について考えるワークシートを作成する。

ｲ)体験活動の振り返りを充実させ、ボランティア精神を育むとともに自己の生き方について文章にまとめるができるような教材及び指導方法を開発する。

③ 生徒一人一人の適性に応じた進路決定に向けた指導の展開

取組目標：進路決定に向けた指導や情報提供がされたと感じている生徒の割合 75%、進路決定率 100%、職場体験参加者 15 人以上 、就職及び進学に関する説明会の回数５回以上

具体的な方策：ｱ)求人票等の就職に関する速やかな情報提供を行うとともに、三者面談等を実施する。

ｲ)卒業生の就職先訪問（GW明け、７月、10 月等）を実施する。

ｳ)ハローワークや専門機関・企業との連携を図る。

（3）生活指導・保健活動・特別活動等の充実

社会性・規範意識が高め、多様性を尊重する姿勢を育む教育活動を展開する。

① 自己肯定感を高め、思いやりや責任感、人権尊重の精神を育むホームルーム活動・学校行事を展開

取組目標：ホームルーム活動や学校行事で活躍できたと実感する生徒の割合 75%以上、ホームルーム活動や学校行事で主体的に取り組むことができたと実感する生徒の割合 75%以上

具体的な方策：ｱ)生徒一人一人の特性を捉えて、全生徒が活躍できる場面の設定を考えたホームルーム活動の指導方法に関する研修会を実施する。

ｲ)学年ホームルームや縦割りホームルームなどを展開する。

② ＴＰＯに応じた対処・行動することのできる人材を育成する生活指導を展開

取組目標：時間の管理ができるようになったと実感する生徒の割合 75%、体調管理（衛生管理、食事等）に関して意識するようになったと実感する生徒の割合 75%、交通安全に関して意識するようになったと実感する生徒の割合 90%、交通安全・防災に関する授業・講習会の実施回数５回以上

具体的な方策：ｱ)スケジュール管理の重要性を指導するとともに、１人１台端末等でスケジュール管理をするなどの方法を指導する。

ｲ)給食指導や食育に関する講演会を実施する。

ｳ)自転車乗車に関する法令やマナーに関する講演会を実施するとともに、ヘルメット着用の指導を徹底する。

③ 生命及び人権尊重の精神を醸成する生徒指導を展開

取組目標：学校が安心できる居場所であると実感する生徒の割合 75%以上、相談しやすい環境であると実感している生徒の割合 75%以上

具体的な方策：ｱ)生徒のＳＯＳをキャッチしやすい教育環境を確立する。

ｲ)スクールカウンセラーと担任の連携が行いやすい環境を整備する。

ｳ)いじめの未然防止及び早期発見の教員体制を構築する。

（4）開かれた学校づくり・健全な学校運営

① 魅力を中学生及び保護者、地域に発信する広報活動

取組目標：受検者数 20 名以上、地域への学校評価アンケート依頼数を前年度比 1.5 倍以上

具体的な方策：ｱ)学校見学会・説明会を実施するとともに、合同説明会等に参加する。

ｲ)ホームページの更新を定期的に行う。

ｳ)学校行事等に地域の方（学校運営連絡協議会協議員等）を招待する。または、地域の方（学校運営連絡協議会協議員等）が参画できる教育活動を展開する。

② 服務事故未然防止に関する取組

取組目標：服務事故０件

具体的な方策：ｱ)服務事故防止に関する研修会及び自己チェックの実施回数３回以上実施する。

③ 働き方改革推進に向けた業務の効率化

取組目標：定時外在校時間 80 時間以上の教職員数０人、効果的・効率的な予算執行（一般需用費のセンター契約集約率）60%以上

具体的な方策：ｱ)業務の継承と OJT を目的とした分掌内分担を実施する。

ｲ)コストパフォーマンスが高い業務遂行を工夫（ムダをなくす、整理整頓）する。